

朝倉 敏夫 教授 略歴・主要研究業績

略 歴

学歴

- 1974年3月 武蔵大学人文学部社会学科卒
- 1977年3月 明治大学大学院政治経済学研究科修士課程修了
- 1985年3月 明治大学大学院政治経済学研究科博士後期課程満期退学

職歴

- 1988年4月 国立民族学博物館第4研究部助手
- 1994年4月 国立民族学博物館第1研究部助教授
- 2001年4月 国立民族学博物館民族社会研究部教授
- 2006年4月 国立民族学博物館民族文化研究部教授・同部長
- 2010年4月 国立民族学博物館文化資源研究センター教授
- 2011年4月 国立民族学博物館文化資源研究センター長
- 2014年4月 国立民族学博物館民族社会研究部教授
- 2016年3月 国立民族学博物館名誉教授・総合研究大学院大学名誉教授
- 2016年4月 立命館大学経済学部教授
- 2018年4月 立命館大学食マネジメント学部教授・同学部長

賞罰

- 2013年 大韓民国玉冠文化勲章受章

社会活動

- 高麗美術館 理事
- 味の素食の文化センター 理事
- 和食文化学会 副会長

主要研究業績

著書

- 『일본 음식 인문학』 헬스레터, 2021年(予定)
- 『韓国食文化読本』国立民族学博物館(共著 林史樹・守屋亜記子), 2015年
- 『コリアン社会の変貌と越境』臨川書店, 2015年
- 『世界の食文化: 第1巻 韓国』農文協, 2005年
- 『くらべてみよう! 日本と世界の食べ物と文化』講談社(共著 阿良田麻里子), 2004年
- 『韓国を知る Q & A 115』千里文化財団, 2000年
- 『日本の焼肉 韓国の刺身—食文化が“ナイズ”されるとき』農文協, 1994年
- 『食は韓国にあり』弘文堂、(共著 森枝卓士), 1986年

編著書

- 『食科学入門』昭和堂（共編著 井澤裕司・新村猛・和田有史），2018年
『財団法人日本民族学協会附属民族学博物館（保谷民博）旧蔵資料の研究』（共編著 飯田卓）国立民族学博物館調査報告 139, 2017年
『火と食』食の文化フォーラム 30, ドメス出版, 2012年
『한민족 해외동포의 현주소』학연문화사（共編著 太田心平），2012年
『グローバル化と韓国社会—その内と外』（共編著 岡田浩樹）国立民族学博物館調査報告 69, 2007年
『「もの」から見た朝鮮民俗文化』新幹社, 2003年
『2002年ソウルスタイル—研究と展示の評価』（共編著 林史樹・金香来）国立民族学博物館調査報告 44, 2003年
『日本における韓国文化の表象』国立民族学博物館調査報告 14, 2000年
『変貌する韓国社会』第一書房（共編著 嶋陸奥彦），1998年

監修・編集協力

- 韓国ドラマ・ガイド『100日の郎君様』NHK出版, 2019年
韓国ドラマ・ガイド『不滅の恋人』NHK出版, 2019年
韓国ドラマ・ガイド『仮面の王 イ・ソン』NHK出版, 2018年
韓国ドラマ・ガイド『馬医』前・後編 NHK出版, 2014年
韓国ドラマ・ガイド『太陽を抱く月』NHK出版, 2013年
韓国ドラマ・ガイド『王女の男』NHK出版, 2012年
韓国ドラマ・ガイド『イ・サン』第1・2・3巻 NHK出版, 2009-2010年
韓国ドラマ・ガイド『クッキ』NHK出版, 2006年
韓国ドラマ・ガイド『宮廷女官チャングムの誓い』前・後・特別編 NHK出版, 2005-2006年
『キムチ百科—韓国伝統のキムチ 100』（韓福麗著・守屋亜記子訳）平凡社, 2005年
『市場の社会史』（鄭勝謨著・林史樹訳）法政大学出版局, 2002年

論文（立命館大学着任以降）

- 「일본 문화인류학자가 바라본 한국 부엌의 변화（日本の文化人類学者が見た韓国の台所の変化）」『냉장고 프로젝트』국립아시아문화전당, 100-115, 2019年
「日本の食研究与高等教育（日本における食研究与高等教育）」殷晔星訳『楚雄師範学院学报』34（4），1-5, 2019年
「『韓食』から見た『和食』」『科学』88（12），1235-1239, 2018年
「人はなぜそれを食べるのか？—韓国人と犬肉」『基礎心理研究』37（1），77-80, 2018年
「岡本太郎が発見した韓国」『季刊民族学』165, 57-62, 2018年
「食科学の確立をめざして—文化人類学の立場から」『食科学入門』179-195, 2018年
「和食文化学へのアプローチ 社会人類学から—食と地域領域論」『和食文化研究』創刊準備号, 87-94, 2018年
「焼肉文化論—ヤキニクのアイデンティティ」『調理食品と技術』23（2），89-100, 2017年
“Cultural Heritage in Korea: from a Japanese perspective”, Akira Matsuda & Luisa Elena Mengoni eds. *Reconsidering Cultural Heritage in East Asia*, ubiquity press pp.103-119, 2016年

以上の略歴、主要研究業績については、朝倉敏夫先生ご本人よりご提出いただいた原稿を、そのまま掲載させていただきました。立命館大学にご着任前の膨大な業績については、国立民族学博物館のホームページで公開されています。